

旧板橋第三小学校跡地利用及び児童相談所の設置に係る区民説明会 概要

板橋区 政策経営部 資産活用課
子ども家庭部 児童相談所設置担当課

1 説明会開催状況

(1) 開催日時

- ①平成 29 年 8 月 27 日（日）午前 10 時～午前 11 時 25 分
- ②平成 29 年 8 月 28 日（月）午後 7 時～午後 8 時 15 分

(2) 開催場所

いたばし総合ボランティアセンター第 4 ボランティア・NPO ルーム
（板橋区本町 24-1）

(3) 説明者

板橋区政策経営部技術担当部長
板橋区子ども家庭部児童相談所設置担当課長

(4) 参加人数

平成 29 年 8 月 27 日（日） 16 名
平成 29 年 8 月 28 日（月） 11 名

2 内容

- (1) 区の課題を解決するための旧板橋第三小学校跡地利用について
- (2) 「(仮称) 板橋区子ども家庭総合支援センター基本構想」について

3 配付資料

区の課題を解決するための旧板橋第三小学校跡地利用について（資料 1）
「(仮称) 板橋区子ども家庭総合支援センター基本構想」について（資料 2）

4 質疑応答要旨

Q 1 : 「(仮称) 板橋区子ども家庭総合支援センター」(以下、「総合支援センター」という。)の整備及び旧板橋第三小学校跡地利用の全体的なスケジュールについて、どのように考えていますか。

A 1 : まず、体育館・プール等の解体により総合支援センター設置用地を確保し、併せて、道路の仮拡幅を行います。その後、東側校舎を解体し、総合支援センターを整備します。また、総合支援センターとは別に「ボランティア拠点機能等を備えた施設」(以下、「ボランティア等施設」という。)を整備し、その建物の完成後、西側校舎機能を移転し、最終的に西側校舎を解体する予定としています。

ボランティア等施設の整備については、整備スケジュールを含めた基本構想を今年度中に策定する予定です。施設規模は、総合支援センターと同様程度、整備完了は最も早く

て平成 34 年度と見込んでいますが、機能や施設規模をこれから決めていく段階にあるため、今後調整していきます。

なお、いたばしボローニャ子ども絵本館については、平成 32 年度に平和公園に建設される中央図書館に移転する予定です。公文書館については、桜井徳太郎文庫の一部を中央図書館へ移転し、その他は別の場所への移転を検討しています。（技術担当部長）

Q 2 : 各施設の配置など、設計図はいつ頃完成しますか。

A 2 : ボランティア等施設が基本計画段階まで進まないとは詳細な内容をお示しできませんが、広場を確保し、南側の住宅とも距離をとり、建物の高さをあまり出さないとなると、ある程度自ずと決まってまいります。旧板三小跡地利用の基本計画にて、全体のゾーニング等、現時点での区のお考え方をある程度お示ししていきます。（技術担当部長）

Q 3 : 耐震に不安のある建物を建替え、子ども達のために事業を行うことはとても良いと考えています。校庭は子ども達が遊ぶスペースでもあるため、そのスペースの確保や、工事の際の安全確保等の観点もバランスよく検討してください。子ども達が工事によって犠牲になるようなことがないよう、時間帯等も含めて考えてください。

A 3 : 運動場をいかに確保できるかということについては、大きな課題と認識しています。工事期間中に安全な形で施設内にスペースを確保できるか、今は明確に示すことできませんが、もし事故があれば取り返しがつかず安全が優先されますので、またご相談させていただきたいと考えています。また、工事の時間帯や、車両の動線を含めて考えてまいります。（技術担当部長）

Q 4 : 整備する建物の高さや、施設整備後の景観や日照時間、近隣の住居と窓との関係等について、どのように考えていますか。

A 4 : 総合支援センターについては 3 階建以下と考えています。近隣住居への視線に関する配慮についても、検討してまいります。（児童相談所設置担当課長）
跡地利用については、今後、基本構想を策定する中でお示ししていきます。建物を敷地の南側に寄せて建てることを検討しており、ボランティア等施設は現状程度の高さを見込んでいます。（技術担当部長）

Q 5 : 近隣に住んでいますが、緊急時に校庭へ直接避難することができません。高齢者が増えているため、短い距離で避難できる通路や、緊急車両・消防車が入れる道路を確保してください。

A 5 : 建物の配置、広場の利用の仕方など、どのような形で利用していただくのが良いのか、十分検討し、地域の防災性の向上も含め、約 6000 m²の貴重な土地を有効有意義に活用していきたいと考えています。（技術担当部長）
今後策定予定である総合支援センター基本計画において、建物だけでなく動線を含めた周辺環境について、配慮すべき点として検討してまいります。（児童相談所設置担当課長）

Q 6 : 道路の拡幅について、どのように考えていますか。また、この跡地の特性としてアクセ

ス良好としているが、狹隘道路なので実際災害が起きた時に緊急車両の通行や、環七からの通行が確保されますか。旧板三小から周辺関係機関へのアクセスも改善したほうが良いのではないのでしょうか。

A 6 : 校舎東側部分の体育館・プールを解体するので、それに先行してプレハブ倉庫等を解体し道路を仮拡幅します。工事を行うに当たり一定の幅員が必要となりますので、解体設計の中で拡幅を行う時期を含めて検討し、お知らせしてまいります。

学校周辺の道路については、今回の整備と併せて跡地側へ道路を拡幅することが可能である一方で、広く見ると、帝京病院へつながる道路が狭いなど課題もあります。かつては防災上の事業で地域とお話ししていた時期もありますが、具体的な整備のルールまで決め切れておりません。今回、旧板三小跡地をもとに周辺道路を拡幅することで、周辺地域との話し合いの契機になればと考えています。（技術担当部長）

Q 7 : 隣接地で保育園の建設が始まっていますが、工事ルートや安全性について、どのように考えていますか。

A 7 : 当初は保育園脇を工事搬入ルートの1つとして考えていましたが、保育園整備を受け、そのルートは使わないこととしました。保育園への送迎時間帯に警備員を配置する等、安全確保に配慮する必要があるため、解体工事の設計の中で十分検討してまいります。（技術担当部長）

Q 8 : 東側校舎や体育館・プールの解体工事において、飛散による公害問題をどのように考えていますか。

A 8 : 公共施設解体工事や改修工事の際にはアスベスト含有の有無を調べ、程度に応じた対応をします。含有がある場合は、報告をしたうえで工事に入ります。（技術担当部長）

Q 9 : 国有地の取得について、どのように考えていますか。

A 9 : 関東財務局の担当と、取得を前提とした話し合いをしています。今年度中に取得の方向で、価格等は今後の調整となりますが、適正な価格で取得できるように国と協議を進めています。（技術担当部長）

Q 10 : 今後も説明会を開催しますか。また、跡地利用をさらに充実したものに仕上げていくため、素案の段階で住民の意見を取り入れる機会を予定していますか。

A 10 : 総合支援センターの整備は一方通行で進めるのではなく、地域のご協力のもとで、お話をしながら進めてまいりたいと考えています。今後は、解体設計が決まる段階や、総合支援センター基本計画を取りまとめた段階での説明を予定しています。（児童相談所設置担当課長）

跡地利用については、全体の構想もできていない段階にありますが、行政の手続きとして、議会報告を経て地域へ説明を行っており、動きがあった際にお知らせしています。今後もこのような機会を設け、いただいたご意見をしっかり受け止め進めてまいります。

4～5年という長期間に渡り工事を行うことになり、近隣の方にはご迷惑をおかけするため、事故がないよう安全に、また、地域から愛される施設となるよう進めてまいります。
(技術担当部長)

Q11：議会報告を経た後では意味がなく、議員が優先であり、地域住民の声を一切聞いていないように感じます。地域から要望が強い防災機能について、どのような利用を考えていますか。

A12：まっさらな状況でご意見をいただくというよりは、区としての考え方をまとめ、それをたたき台としてご意見をいただき、まとめていくことを考えています。防災については、広場を整備していく中では重要な要素と認識しており、なくさずに引き続き整備してまいりたいと考えています。また、議会は区民の皆様から付託されているため、尊重する必要があると考えます。(技術担当部長)

双葉町氷川神社本祭りの開催に際して解体工事の着工時期を再検討する等、地域からのご意見に対し配慮させていただいております。行政がすべきことと、地域から頂いたご意見と調整しながら、今後も進めてまいります。(児童相談所設置担当課長)

Q13：資料1の1ページに「17号線が緊急自動車専用路となり、環状七号線以南への一般車両の通行が禁止されるため、物資の輸送に支障」とありますが、災害拠点について、どのように考えていますか。

A13：環状七号線の北・南側には何らかの拠点が必要と考えており、旧板三小で災害時の対策がとれるよう、発災時の状況を想定して対策を組んで行く必要があると考えています。防災備蓄倉庫や広場についての具体的な内容を検討するため、防災を所管する危機管理室と調整し、皆様のご意見をしっかり受け止めながら、より良い形で具体化してまいります。(技術担当部長)

Q14：旧板三小跡地にいこいの家を設置して欲しいという陳情がありました。また、後継者がおらず銭湯の営業継続が難しいという課題や災害発生時のことを含め、協定や支援などの方策について、どのように考えていますか。

A14：いこいの家は、お風呂の機能や年齢制限を外すと集会施設に近いものですが、旧板三小には誰もが使える集会機能を考えています。また、廃業になる銭湯が多いことも聞いています。実際に利用がないと営業が立ち行かないところではありますが、いただいた内容を所管に伝えます。(技術担当部長)

Q15：整備する施設について、具体的な内容が分からないままでは賛成しかねます。社会福祉協議会は全国組織ですが、子供たちやお年寄りに手を差し伸べていくのが社会福祉協議会の本来のあり方であり、今のまま移転しても意味がないと考えます。

A15：跡地利用については、社会福祉協議会や集会機能等、様々な機能がどうあるべきかということのを区としてしっかり検討し、意見のキャッチボールをしながら進めてまいります。
(技術担当部長)

Q16：跡地利用について、多くの機能を提示していますが、広場を確保したうえでどのように盛り込んでいくのでしょうか。また、この跡地には地域のためになるものを入れて欲しいという思いがあります。富士見・仲宿地域には老人向けの施設等が少ないが、どのように考えていますか。

A16：敷地は現状 6,000 m²あり、セットバックしても大きな面積は確保できます。総合支援センター及びボランティア等施設の施設規模はそれぞれ延床面積 2,500 m²の想定で、広場は現状の校庭程度は確保可能と考えています。まだ構想段階ですので、いただいたご意見の高齢者関係施設が入れられるのかどうかを含め、施設の内部調整とバランスを考えながら検討してまいります。（技術担当部長）

Q17：資料 1 の 2 ページの広場機能「多世代交流」について、どのように考えていますか。また、同ページの「観光資源を回遊する際の休憩場所」の観光資源とは、縁切り榎のことを指しますか。

A17：幼児から高齢者まで対象を絞ることなく、幅広く利用できる広場を考えています。詳細については、これから構想の中で具体的にしていまいります。

観光資源については、縁切り榎に限らず、石神井川の桜や板橋など、中山道の観光名所を歩くための休憩場所として、トイレも含め必要なものを整備したいと考えています。（技術担当部長）

Q18：多世代交流が可能な憩いの広場には、子どもが来たくするような施設の整備を考えていますか。

A18：現在の考えとしては施設にこだわらず、広場の作り方等を含め、ご意見ご要望を受け止めながら考えてまいります。総合支援センター自体も悩みのある保護者のみを対象としているわけではありませんので、全体で、板橋区社会福祉協議会やいたばし総合ボランティアセンターも含めて旧板三小跡地利用の基本構想・基本計画の中で具体的に検討を加えてまいります。（技術担当部長）

総合支援センターは、児童相談所と子ども家庭支援センターの機能を併せ持つ施設とします。子ども家庭支援センターでは、子育て支援によるすくすくまつり等の事業も行っています。ボランティア等施設や広場も含めて連携・活用していくことで、新たな事業展開を行うことも考えてまいります。（児童相談所設置担当課長）

Q19：児童相談所を良い施設に、また、人材の確保も含め、子どもにとって温かみのあるものにしてください。

A19：悩みを抱える保護者や、心に傷を負っている子ども等、支援を必要とする状況は様々ですので、子ども達が安心できる場所であること、また、セキュリティを確保していく必要もあると考えています。これらに配慮するため、総合支援センター基本計画において専門家等の意見を伺いながら進めてまいります。（児童相談所設置担当課長）

Q20：現在、子ども家庭総合支援センターと北児童相談所がありますが、総合支援センターの整備により、都の機能はなくなり、区によって現在の機能が整うということでしょうか。

また、区が担うことになる機能は、非常に膨大かつ重要だと考えますが、どのように検討していくのでしょうか。

A20：北児童相談所は板橋区・荒川区・北区を担当していますが、この3区は平成32～33年度にそれぞれ設置する予定となっています。3区がそれぞれ児童相談所を設置することにより、北児童相談所が担っていた機能は区に移り、区が担うことになります。区が担う機能の検討については、都の協力関係のもと、23区での協議、区の検討会により検討を進めています。本日の説明会にて基本構想についてお話ししましたが、具体的にどのような事業等を行うかについては、今後定める基本計画の中で示してまいります。（児童相談所設置担当課長）

Q21：一時保護所の運営に際し、周辺住民への配慮をどのように考えていますか。

A21：一時保護は、現在、東京都が行っている業務なので、学びながら設置準備を進めており、適切な職員数や警備員の配置も検討しています。また、一時保護所を含めた建物内のゾーニングについて、専門家の意見を取り入れながら検討します。区に初めて設置する施設ですので、まずは設計に入る前段階である総合支援センター基本計画を固め、ひとつひとつ段階を踏みながら、区民の皆さまにとってより良い施設とするために、ご意見をいただき進めてまいります。（児童相談所設置担当課長）

Q22：一時保護所の幼児と学齢児、その他の利用者が広場を共同利用することに問題はありませんか。

A22：一時保護所に入る子どもたちは基本的には施設内で過ごすことになるため、日常的に広場を使うという想定は今の段階ではしていません。（児童相談所設置担当課長）
一般的な子どもたちの利用については、公共の場としてのルールを想定しています。広場整備については、飲食・飲酒等の扱いや、地域がどのように使うか、どういった機会でご意見を伺っていくかも含め、十分考えてまいります。（技術担当部長）

Q23：児童主任委員として、北児童相談所、保育園等の児童と関わる施設とやりとりをした経験から、基本構想のとおり機能すればよい施設になると考えます。児童相談所が中心となった連絡会のようなものの必要性を感じますが、どのように考えていますか。

A23：関係機関との連携については、現在の子ども家庭支援センターを中心とした「要保護児童対策地域協議会」という会議体があります。今後、区の児童相談所設置後も、主任児童委員含め関係機関との連絡調整を密に取ってまいります。（児童相談所設置担当課長）

Q24：総合支援センターの名称は長いと思います。

A24：子ども家庭支援センターと児童相談所の機能を併せ持つことが分かるような仮称名としています。皆さんに親しまれるような愛称を付けた場合にも、行政機関である児童相談所であることが分かるようにする必要があると考えています。（児童相談所設置担当課長）